



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 宝ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2531 URL <https://www.takara.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 睦  
問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR部長 (氏名) 宇佐美 昌和 TEL 075-241-5124  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	291,529	9.2	12,632	△15.3	12,555	△21.8	10,557	△18.8
2025年3月期第3四半期	266,935	5.3	14,909	△16.1	16,066	△14.6	13,002	△6.7

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 5,888百万円 (△40.7%) 2025年3月期第3四半期 9,932百万円 (△70.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	54.59	—
2025年3月期第3四半期	66.59	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	497,091	296,849	49.7
2025年3月期	477,587	300,903	51.3

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 246,836百万円 2025年3月期 245,228百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	—	—	31.00	31.00
2026年3月期	—	—	—		
2026年3月期（予想）				31.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2026年3月期（予想） 期末配当金の内訳 普通配当 29円00銭 創立100周年記念配当 2円00銭

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	392,000	8.1	16,200	△21.3	15,700	△29.2	11,100	△31.5	57.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) Curio Bioscience, Inc.、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期3Q	197,252,043株	2025年3月期	197,252,043株
2026年3月期3Q	4,378,161株	2025年3月期	1,996,109株
2026年3月期3Q	193,409,925株	2025年3月期3Q	195,256,263株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有(任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書 .....	11

○ 第3四半期決算短信補足資料

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は291,529百万円（前年同期比9.2%増）、売上総利益は94,241百万円（同7.7%増）、販売費及び一般管理費は81,609百万円（同12.4%増）、営業利益は12,632百万円（同15.3%減）、経常利益は支払利息や為替差損が増加したことなどにより12,555百万円（同21.8%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益が投資有価証券売却益6,411百万円の計上などにより増加しましたが、特別損失も未稼働の受託製造にかかる設備の減損損失3,870百万円を計上したことなどにより増加し、繰延税金資産の一部の取り崩しなども行いましたので10,557百万円（同18.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### [宝酒造]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、清酒、ソフトアルコール飲料、調味料は増加しましたが、焼酎、ウイスキーなどのその他酒類、原料用アルコール等が減少しましたので減少いたしました。

以上の結果、宝酒造の売上高は93,303百万円（前年同期比1.9%減）となりました。売上原価は68,854百万円（同2.3%減）となり、売上総利益は24,448百万円（同0.7%減）となりました。販売費及び一般管理費は、広告宣伝費や販売促進費などが減少し18,649百万円（同3.2%減）となり、営業利益は5,798百万円（同8.4%増）となりました。

#### [宝酒造インターナショナルグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、ウイスキーが引き続き増加しましたので、海外酒類事業の売上高は増加いたしました。海外日本食材卸事業の売上高も、前期に新たにグループに迎え入れた企業の寄与などもあり増加いたしました。

以上の結果、宝酒造インターナショナルグループの売上高は160,017百万円（前年同期比20.0%増）となりました。売上原価は107,948百万円（同20.2%増）となり、売上総利益は52,069百万円（同19.8%増）となりました。販売費及び一般管理費は、人件費、運送費、のれん償却費などが増加し42,306百万円（同24.0%増）となり、営業利益は9,762百万円（同4.2%増）となりました。

#### [タカラバイオグループ]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、受託が増加したものの、試薬、機器、遺伝子医療が減少いたしました。

以上の結果、タカラバイオグループの売上高は28,392百万円（前年同期比3.0%減）となりました。売上原価は売上構成の変化の影響などにより14,252百万円（同10.4%増）となり、売上総利益は14,140百万円（同13.6%減）となりました。販売費及び一般管理費はCurio Bioscience, Inc.（以下、「Curio社」という。）の買収に関する費用およびのれん償却費を計上したことなどにより18,995百万円（同6.5%増）となり、営業損失は4,855百万円（前年同期は営業損失1,473百万円）となりました。

#### [その他]

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて、ワイン輸入販売などが引き続き増加し24,837百万円（前年同期比3.6%増）となりました。売上原価は20,515百万円（同1.2%増）となり、売上総利益は4,322百万円（同17.2%増）となりました。販売費及び一般管理費は、販売促進費などが増加し1,501百万円（同0.6%増）となり、営業利益は2,821百万円（同28.4%増）となりました。

## 品種別販売実績

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	対前年 増減率
品種	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
焼酎	25,305	23,437	△7.4
清酒	8,688	8,727	0.5
ソフトアルコール飲料	33,105	33,941	2.5
その他酒類	4,080	3,477	△14.8
本みりん	7,942	7,944	0.0
その他調味料	7,329	7,428	1.4
原料用アルコール等	8,680	8,345	△3.9
宝酒造	95,131	93,303	△1.9
海外酒類	17,133	20,175	17.8
海外日本食材卸	118,033	141,807	20.1
その他	558	572	2.6
グループ内連結消去	△2,407	△2,538	—
宝酒造インターナショナルグループ	133,316	160,017	20.0
試薬	22,424	21,640	△3.5
機器	644	589	△8.6
受託	3,496	3,792	8.5
遺伝子医療	2,716	2,370	△12.7
タカラバイオグループ	29,282	28,392	△3.0
報告セグメント計	257,730	281,713	9.3
その他	23,963	24,837	3.6
セグメント計	281,693	306,551	8.8
事業セグメントに配分していない 収益及びセグメント間取引消去	△14,757	△15,021	—
合計	266,935	291,529	9.2

(注) 販売金額には酒税を含んでおります。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は243,149百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,283百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が22,354百万円減少し、受取手形及び売掛金が12,710百万円、商品及び製品が5,226百万円、流動資産のその他が2,620百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。固定資産は253,942百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,788百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が建設仮勘定の増加などにより5,351百万円、無形固定資産がCurio社を買収したことなどにより16,180百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

以上の結果、総資産は497,091百万円となり、前連結会計年度末に比べ19,504百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は82,915百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,495百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が3,386百万円、1年内償還予定の社債が5,000百万円、流動負債のその他が7,495百万円それぞれ増加し、短期借入金が5,956百万円減少したことによるものであります。固定負債は117,326百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,062百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が9,777百万円、固定負債のその他がCurio社の買収による条件付対価の認識などにより9,571百万円それぞれ増加し、社債が流動負債への振替により5,000百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は200,241百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,558百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は296,849百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,053百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が4,504百万円、その他有価証券評価差額金が2,296百万円それぞれ増加しましたが、自己株式が取得により2,999百万円増加し、為替換算調整勘定が2,178百万円、非支配株主持分が5,661百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は49.7%（前連結会計年度末は51.3%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年11月11日の「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	83,302	60,947
受取手形及び売掛金	73,319	86,029
商品及び製品	72,795	78,022
仕掛品	1,727	1,883
原材料及び貯蔵品	7,811	7,230
その他	7,217	9,838
貸倒引当金	△739	△802
流動資産合計	245,433	243,149
固定資産		
有形固定資産	123,610	128,961
無形固定資産		
のれん	25,283	29,912
その他	16,378	27,929
無形固定資産合計	41,662	57,842
投資その他の資産		
投資有価証券	34,467	36,721
その他	32,474	30,477
貸倒引当金	△60	△61
投資その他の資産合計	66,880	67,138
固定資産合計	232,154	253,942
資産合計	477,587	497,091
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,067	27,453
短期借入金	12,315	6,358
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払法人税等	2,742	3,888
引当金	3,826	2,251
その他	30,468	37,963
流動負債合計	73,419	82,915
固定負債		
社債	15,000	10,000
長期借入金	30,689	40,467
退職給付に係る負債	8,345	8,058
その他	49,228	58,800
固定負債合計	103,264	117,326
負債合計	176,683	200,241

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,226	13,226
資本剰余金	2,804	2,804
利益剰余金	180,449	184,954
自己株式	△2,103	△5,103
株主資本合計	194,376	195,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,513	18,810
繰延ヘッジ損益	△4	0
為替換算調整勘定	34,204	32,025
退職給付に係る調整累計額	138	117
その他の包括利益累計額合計	50,851	50,954
非支配株主持分	55,675	50,013
純資産合計	300,903	296,849
負債純資産合計	477,587	497,091



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	266,935	291,529
売上原価	179,411	197,288
売上総利益	87,523	94,241
販売費及び一般管理費	72,614	81,609
営業利益	14,909	12,632
営業外収益		
受取利息	686	509
受取配当金	912	901
その他	594	521
営業外収益合計	2,194	1,932
営業外費用		
支払利息	475	1,117
その他	562	890
営業外費用合計	1,037	2,008
経常利益	16,066	12,555
特別利益		
投資有価証券売却益	2,912	6,411
その他	894	747
特別利益合計	3,807	7,159
特別損失		
減損損失	108	3,870
その他	288	281
特別損失合計	397	4,152
税金等調整前四半期純利益	19,476	15,562
法人税、住民税及び事業税	6,781	8,183
法人税等調整額	△354	178
法人税等合計	6,427	8,362
四半期純利益	13,049	7,199
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	46	△3,358
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,002	10,557

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	13,049	7,199
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,048	2,296
繰延ヘッジ損益	△1	4
為替換算調整勘定	1,804	△3,581
退職給付に係る調整額	128	△31
その他の包括利益合計	△3,116	△1,310
四半期包括利益	9,932	5,888
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,558	10,660
非支配株主に係る四半期包括利益	374	△4,771

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、タカラバイオ株式会社（当社の連結子会社）の100%子会社であるTakara Bio USA Holdings Inc.がCurio Bioscience, Inc.の株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	94,422	133,034	29,281	256,738	10,197	266,935	—	266,935
セグメント間の内部 売上高又は振替高	708	282	0	991	13,766	14,757	△14,757	—
計	95,131	133,316	29,282	257,730	23,963	281,693	△14,757	266,935
セグメント利益又は損失(△)	5,350	9,372	△1,473	13,249	2,198	15,447	△537	14,909

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△537百万円は、セグメント間取引消去△18百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△519百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、減損損失108百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「宝酒造インターナショナルグループ」セグメントにおいて、ドイツ・ミュンヘン近郊で食材卸売業を行うKagerer & Co. GmbHの出資持分90%を取得したことにより、のれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、14,774百万円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2025年4月1日至2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宝酒造	宝酒造インターナショナルグループ	タカラバイオグループ	計				
売上高								
外部顧客への売上高	92,410	159,783	28,392	280,586	10,942	291,529	—	291,529
セグメント間の内部 売上高又は振替高	892	233	0	1,126	13,895	15,021	△15,021	—
計	93,303	160,017	28,392	281,713	24,837	306,551	△15,021	291,529
セグメント利益又は損失(△)	5,798	9,762	△4,855	10,706	2,821	13,527	△895	12,632

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貨物運送事業、ワイン輸入販売、不動産賃貸事業などであります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△895百万円は、セグメント間取引消去△93百万円、事業セグメントに配分していない当社の損益△802百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、減損損失3,870百万円を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「タカラバイオグループ」セグメントにおいて、空間解析用研究試薬の開発・製造・販売を行う Curio Bioscience, Inc. の全株式を取得したことにより、のれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、6,273百万円であります。なお、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	7,523百万円	9,019百万円
のれんの償却額	1,040	2,341

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月13日

宝ホールディングス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
京都事務所

指定有限責任社員 公認会計士 菱本 恵子  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 美濃部 雄也  
業務執行社員

## 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている宝ホールディングス株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。